

## 令和7年度 香川県学習状況調査の分析結果と対策について（お知らせ）

大寒の候、保護者の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。平素より、本校の教育活動に格別のご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、11月に実施しました香川県学習状況調査結果の概要と各教科担当による分析と考察を下記の通りお知らせします。本校では、この結果を参考にしながら今後の学校運営や授業改善に努めてまいりますので、今後ともご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 記

## 1 各教科の結果の分析と考察

**国語** 分類別に見てみると「言葉の遣い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で、ともに4ポイント程度県平均を上回っている。しかし、「情報の扱い方に関する事項」では、県平均を1ポイント下回っており、文章の内容を的確に捉える力や論理的思考力を身につける必要がある。また、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えを述べる問いに対しても正答率が低く、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む力に課題がある。

これらのことから、説明的文章を読む際には、複数の教材から様々な情報を取り出しながら自分の考えをもつような授業展開を増やしていきたい。また、文学的文章を読む際には、内容や表現の仕方について感想を交流する場面を増やし、知識や体験と関連付けて自分の考えを持てるような授業展開を増やしていきたい。

**数学** 「知識・技能」を問う問題の正答率は、67.0%と県平均を3.7ポイント上回っているが、「思考・判断・表現」を問う問題は正答率が38.8%と県平均を1.4ポイント下回っており、学習した内容を覚えているが、どのような場面で活用できるかが理解できていないため、知識の伝達だけでなくそれを利用する機会を増やしていきたい。また、単元ごとにみると、「数と式」「図形」「関数」の正答率は、県平均を上回っているが、「データの活用」では、県平均を1.1ポイント下回っている。資料を読み取る力は、身につけているがそれを利用したり言葉で表現したりすることを苦手としている。そのため数学的視点から物事を説明する力を身につけさせたい。

**英語** 「知識・技能」を問う内容の正答率は61.9%で、県平均に対して+4.1ポイントである。「思考・判断・表現」を問う内容の正答率は47.3%で、県平均に対して+3.9ポイントである。「聞くこと」については、県平均より全体では1.3ポイント上回っていた。「読むこと」についても、県平均は2.3ポイント上回っているものの、正答率が34.9%と低かった問題が2問あった。「書くこと」の内容については、県平均は10ポイント近く上回っている。しかし、日常的な話題について、自分の考えやその理由を正しく伝える文を書くことに課題が見られた。今後は、「基本的な知識・技能」の習熟状況を確認したうえで、既習事項が定着できるような課題を繰り返し設定していきたい。自分の立場で伝えたり、書いたりする活動を通して「思考力・判断力・表現力」を高め、場面に応じた言語材料を適切に使用できるような指導計画も考えていく必要がある。

## 社会

### ①正答率について

「知識・技能」を問う内容の正答率は70%を超え、県平均に対して+13.8ポイントである。「思考・判断・表現」を問う内容の正答率は、60%を上回り、県平均に対して+18.8ポイントである。地理的分野も歴史的分野においても、ほとんどの設問において県平均を大きく上回っている。しかし、「地図資料を活用して室町の一を正しく判断できるか」、「カード（香川県、世界）の内容から、年表にあてはまる位置を正しく判断できるか」の設問において、県平均をやや下回っている。地図帳や年表を用いて全体における位置や、歴史の流れにおいて事象を捉える力を身に付けさせたい。

### ②無解答率について

本校の無解答率は、県平均と比較するとかなり低い。よく解答できているということである。設問ごとにみると、「統合を進めてきたEUの課題である経済格差について説明する資料を適切に読み取り表現することができるか」では、20.9%（県平均30.3%）、「資料から読み取った当時の東アジアの情勢について正しく分析できるか」では、23.3%（県平均37.6%）とやや高い。

①・②の結果から、全体として「基本的な知識・技能」の習得状況を確認しながら学習を進め、定着に向けた取組も行う。また、それと併せて、単元の学習を終えるごとに、既習事項を自分の言葉や表現技法を使ってまとめる取組を継続して行うことで、「思考力・判断力・表現力」を高め、個別的な知識を結び付けて概念的な知識に至るまで理解を深めていく必要がある。

## 理科

香川県の正答率に比べて本校の正答率が低い設問を見てみると、「基本的な知識や技術」に関する設問が多い。復習が不十分で学習した内容を忘れ、定着しきれていないことがわかる。教科書に出てくる内容をしっかりと自分のものにしていないと正しく答えることはできない。また、問題について分析すると、問題に出てくる会話文や説明文が長くなるほど、読み解くことができていない。長い説明文の中から設問に関係している学習内容に気づき、それを手がかりにして思考し、判断して答えなければならない。そのような設問において、正答率は低めである。単元でいうと、「光」の単元の正答率が低い。自分にとって身近な普段の現象を、学習内容と結びつけて考えることが苦手である。光の単元は、それらを結びつけることができれば、「難しいけれどおもしろい」と感じるができる。授業者がどれだけ意識して授業づくりをするかが大切であると改めて実感させられた。

授業では学習内容を覚えさせることよりも、授業後に学習内容についてイメージをもつことができるような授業を意識していく。さらに、授業で学んだこと、体験したことを定着させるための取り組み、宿題の出し方を工夫しなければならない。

## 2 生徒質問紙調査の結果

### (1) よかった傾向：県より5ポイント以上高い

- ① 今住んでいる地域（香川県）の歴史や自然、産業について関心がある
- ② 授業では、解決方法、解決時間などを自分で選んだり決めたりしている
- ③ 自分にはよいところがあると思う
- ④ 英語の授業で、生徒同士の問答や意見交換する活動が行われている
- ⑤ 授業は自分に合った教え方、教材、学習時間などになっている

### (2) 気になった傾向：県より5ポイント以上低い

- ① 普段の授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用している
- ② 授業は楽しいと思う
- ③ PC・タブレットなどのICT機器の使用は勉強の役に立つと思う
- ④ 家で、自分で計画を立てて学習している